

感染症情報 9月9日～15日

府下小児科196医療機関(堺市19)から

①RSウイルス感染症	873例(堺市	96例)
②感染性胃腸炎	743例(堺市	49例)
③溶連菌感染症	373例(堺市	47例)
④手足口病	260例(堺市	17例)
⑤ヘルパンギーナ	203例(堺市	19例)

府下インフルエンザ定点300医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	105例(堺市	3例)
---------	---------	-----

感染症報告数は前週比4.0%増の2,898件であった。

報告数の第1位はRSウイルス感染症で、以下、感染性胃腸炎、溶連菌感染症、手足口病、ヘルパンギーナの順であった。

RSウイルス感染症が府下で25%増、堺市で97例→96例(1%減)であった。府下の定点当たり4.45、堺市で5.05になっている。感染性胃腸炎は府下で前週と比較して2%減、堺市では26%増であった。溶連菌感染症は府下で35%増、堺市で30例→47例は57%増であった。手足口病は府下で16%減、堺市で22例→17例であった。ヘルパンギーナは府下で17%減、堺市で17例→19例であった。

インフルエンザが府下で前週81例→今回105例でさらに増加していた(30%増)。堺市では前週8例→今回3例に減っていた。

麻疹や風疹の報告はなかった。